

共立女子大学文芸学部報

和田真生先生
(芸術領域)
インタビュー

聞き手 福嶋伸洋

歌舞伎への道

——ゼミではどんなことをやって
いますか？

院と学部とそれぞれありますが、院生の方は『盟三五大切』という鶴屋南北の作品を読むことになりました。ちょうど六月に歌舞伎座でやるので、実際に見られますし。最初に読むものとしては前提知識があるのでちょっと難しいんですが、院ならいいかと。赤穂事件を元にした『仮名手本忠臣蔵』という人形浄瑠璃を原作にした歌舞伎があって、それを下敷きにしている南北の『東海道四谷怪談』の後日譚として作られた芝居です。忠臣蔵も四谷怪談も知っていなければいけないので、前半で前提知識のところを調べて各自報告して、それを踏まえて、後半



台本を読みま
しょうという
流れにしよう
と思っていま
す。

今年、演劇
学領域の院生
は五人いて
たまたま全員
私のところで
すが、歌舞伎
の研究をやる
人ってそのうち三人くらいなんで
すよ。他の人は他の古典芸能だっ
たり。意外とみんな歌舞伎の基
本を持っているわけではないの
で、その辺を調整しながらやろう
かなあと。学部のゼミは、三年の
ほうは聴講も含めて二年生から院
生までいろんな学年が入り混じっ
ていて、二年生のゼミは四年生が
手伝ってくれています。どっちも
歌舞伎の台本を読むゼミです。

——和田先生はそもそもどうい
うきっかけで歌舞伎や日本の古典芸
能に惹かれていったんでしょうか。

三歳くらいの時、たまたま両親
の友人の踊りの発表会に連れて行
かれたそうです。それが面白かつ
たらしくて、やりたいと言いはじめ
たんですけど、親たちはどうやっ
て師匠を探したらいいかわから
ないし……。今ならネットで調べ
れば出てきますが、四十年以上前
なので。しばらくそのままになっ
ていたそうです。

そしたら、わたしの通っていた
幼稚園の園長先生の妹さんが日本
舞踊の先生で、ちょうど幼稚園生
向けに教室を始めたので、最
初はそこで。卒園後に直接入門し
ました。なので踊りがきっかけで
すね。



——おいくつ
くらいまで？

大学に入る
前くらいまで
すかね。高校を
卒業する頃に
師匠が引退し
て。名執になっ
ていると勝手に
よそに入門する
わけにもいま
せんし、そのま

——その道もありえたなかで、研
究にシフトしていったと？

いえ、一回就職しているんです。
学部を出て修士課程まで行っ
たんですが、同期たちを見た時に、研
究ってこういう
う人たちがや
るんだ、わた
しはちょっと
違うなと思っ
たんです。研
究という面で
優秀な人たち
が周りにい
て。研究をし
ようと思っ
て学部から積
み重ねてきた
のが彼らには



あるんですよ。
わたしは学部の五年間、芝居し
かしていません。それでわたし
がやるのは研究じゃないかもしれ
ない、実際に作る側、現場の方を
見てみたいと思って、演劇の製作
や興行をやっている会社に就職し
ました。転職しようとか研究しよ
うとかは思わず、ずっと勤めるつ
もりでした。

——なぜこの大学に？

なんででしょうね？ 入社から何
年かしてちょっと勉強したくなっ
たときに、当時、古井戸秀夫先生
のいらっしゃった文化資源学研
究室が、社会人入学を受け入れて
いることを知りました。しかも古井

共立女子大学文芸学部報
第149号
発行日 2026年7月17日
編集・発行 共立女子大学
文芸学部
〒101-8437
東京都千代田区
一ツ橋2-2-1
発行責任者 遠藤耕太郎
創刊 1968年12月
題字 遠藤慎吾
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご
感想を以下のメールアドレス
までお寄せください。
gakubuho
@kyoritsu-wu.ac.jp

学部報は共立女子大学公
式HPの「文芸学部」の
コーナーでもお読みに
なれます。



第149号 主目次

- 第1面 和田真生先生
インタビュー
- 第2面 Stories
- 第3面 俳壇・歌壇
選評
- 第4面 領域から
心象点描

だと個別には返せないですけど、
ゼミならレポートやレジュメに赤
を入れて返します。文法がおかし
いとかこの言葉はおかしいとか。
学生は嫌だと思えます。
非常勤だとそこまではしない
じゃないですか。文章を書いて生
きていくわけではないけれど、基
本的な伝える力、考える力を、最
低限持つてもらわないと、という
発想は、一年前まではなかったの
でそこは変わりました。

専任教員だと、同じ学生に来年
も会う、他の授業でも会う。それ
はそれで心強いところもありま
す。ゼミ生が講義に出ていると反
応してくれるから話しやすい、と
いうこともありますし。

——学生の印象はどうですか？

素直なひとが多い気がします。

——歌舞伎がす
ばらしいと
思っ
てほしい
わけでは
ないん
です。褒
める必要
もありません。リ
アクション
のような
もので、こ
れがす
ばらしいと
思



——歌舞伎以外の趣味はありま
すか？

趣味

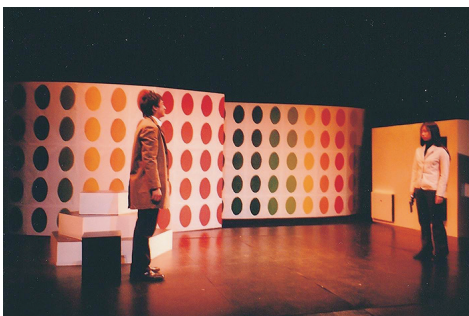
完全に離れたところではないん
ですが、踊るの
が好きなのでイ
ンド舞踊とか。
カタックという
北インドの宮廷
舞踊で、しばら
く前に習いに
行っ
てたんです
が、ずっと行け
てなくて。あ
とはチーズを食
べるのが好きで

——チーズは無限に種類がありそ
うですけど、どんなものが好きで
すか？ ヤギとか？

ヤギも好きです。羊のシェー
ヴルとか、バルデオというスベ
インのクセの強いチーズが好きで
す。わたしはお酒が飲めないの
で、肩身が狭いんですけど。チーズ
というワインが出てくるじゃな
いんですか。わたしは紅茶とチー
ズでいいので……。お茶も好きです。
ヨーロッパに行くときスツケース
半分、チーズを入れて帰ってきま
す。いずれ紅茶とチーズを出す店
をやりたいですね。

——先生ご自身が授業で批判的な
アプローチをすることも？

ありますね。わたしは歌舞伎が
無条件に好きなわけではないです
し、今の上演が全体的に思っ
ていないわけでもない。歌舞伎を
必ず今のカタチで子々孫々残さな
ければならないとは思っていいな



——内容もそうだけど、アプロー
チの仕方を教育する、と。

何か調べた時に、ググって出て
きたことじゃだめ
なんだよ、とか、
文章を書く最低限
の作法なんかを、
ちょっとずつ身に
つけておいてほし
いな、と。レポー
トやテストの評価
基準の一つに、日
本語がちゃんと書
けているかは、で
きるだけ加えてい
るんですよ。講義



バグロマンス

アライグマ

長年やっていたゲームがVR化されることになった。私はゲームの運営から連絡が来て特別に先行プレイできることになった。

実際のゲームのキャラが目の前にいたり、実際に冒険することができてとても楽しんでいた。しかし、大規模なバグが起きてしまっ

た。バグの影響でVRゴーグルにロックされ、プレイヤー達は現実世界に戻れなくなってしまった。運営から一週間もすればバグは修正されるため一週間何も考えずにゲームをすることにした。

バグの影響かも

しれないがゲームの中でも実際に食事や睡眠をとることができたため、生活に困ることはなかった。冒険を進めている途中、私は推しキャラに出会った。私は彼と仲良くなった。彼は時々甘い言葉を言ってきたり、急に手を繋いできたりした。ゲームのストーリーでは彼はこんな行動はしていないかったた



め、おそらくバグの影響だろう。戻ったら運営に報告しなくては、そう思いつつも私は彼と仲良くできる喜びを噛み締めていた。

問題も解決してもう彼とお別れだ。本来のストーリーなら彼に次の冒険の場所について聞き、この場所と別れる場面のはずだ。しかし、彼から「話したいことがある」と言われて海岸に来ている。私達はたわいもない話をしながら笑い合っていた。突然、彼から「好きだ。ずっと俺のそばにいて欲しい」と告げられる。私は天に昇れるほど嬉しかった。そして、彼を抱きしめた。醜い容姿に生まれ、空気が読もうと思っても読めないせいで学生時代から人間関係に苦労した私にとって、彼だけが唯一の救いだったからだ。そして彼のことを愛するようになったからである。

——バグが始まってから一週間はとくに過ぎていた。バグの復旧の目処は立たない。復旧はもうしない。

パソコンを閉じて、スーツ姿の男がやつれた老夫婦に言う。「本当にこれでよかったのですか?」老夫婦は答える。「あの子にしてあげられることはもうこれしか残っていません」

男がやつれた老夫婦に言う。「本当にこれでよかったのですか?」老夫婦は答える。「あの子にしてあげられることはもうこれしか残っていません」

男がやつれた老夫婦に言う。「本当にこれでよかったのですか?」老夫婦は答える。「あの子にしてあげられることはもうこれしか残っていません」

楽園

遊佐春子



K町は富裕層と貧困層がはつきりと分かれていた。貧困層は、富裕層に食料も労働も、全てを支配される生活を送っていた。街の中心には莫大な資産を有する科学者の家が聳え立っている。コンクリート製で、窓もなく、外から見

て得られる情報と言え、建物の正面にある小さなドア、ただ一つ。異様な静寂を響かせるこの建物は、貧困層の住人たちが常に見下ろし、暗い影を落とす。ある日「こんな生活、みんなで抜け出して、幸せになろう」と貧困層の若い男が立ち上がった。十数人の仲間と共に、町の象徴である資産家の家を襲撃し、資産を強奪する計画を立て、数日後の実行日をひっそりと待っていた。

闇夜に紛れて、彼らはその時を迎えた。たった一つのドアから侵入しよう、と、ドアノブにそっと手を掛けると、意外にもドアノブは「カチャリ」と音を鳴らし、開錠を示した。恐る恐るドアを開くと、その先には、未知の静寂を響かせる外観とは反対に、色彩豊かな衣料品、宝石など煌びやかな光で溢れていた。彼らは我先にと、目を輝かせて外に運び出す物を選び始めた。強盗に入っていることを忘れ、光輝くであろう未来に思いを馳せていた。長居するのは良くない、と名残惜しくも、腕から溢れるほどの光沢を抱え、足早に出口へと向かった。先程と同じようにドアノブをひねると、「ガチャン」と鈍い音が響いた。「ドアが開かない」一人がそう、呟いた。襲撃のため持ってきた鈍器でドアを壊そうと何度も挑戦したが、ドアは決して開かない。家主である資産家が家にいる様子もないため、彼らは暫くこの家で過ごすことにした。誰からも支配されず、見下されずに生きるという初めての体験に心を踊らせ、彼らは楽園を享受していた。しかし、ドアも開かず、家主が帰って来ない生活が数カ月と続き、いつしか、今までの日々が恋しくなっていた。鶏の朝鳴きも、フクロウが鳴く声も、何も聞えない閉塞感と、限りある食料が徐々に減っていく焦燥感が彼らを徐々に追い詰めていった。そして、ある日、仲間の一人が食料を隠し持っているのが発覚した。「みんなで幸せになる」という協力のもと成り立っていた関係は、「支配し、支配される」関係に変化していき、かりそめの楽園は、崩壊した。

監視カメラを見ていた楽園の主は記録を書き綴っていた手を止め、研究の成果たちを眺め、満足そうに頷いた。

おまじない

鱈

全てが嫌になって衝動的に掃除をしていた私は、棚の奥に古いゲーム機を見つけた。子どもの頃、近所のおもちゃ屋で買ったものだ。親に没収され、実家を出る時に返されたたり、存在を忘れていた。なぜか電源ランプが点いていた。私は吸い込まれるように起動した。製造元も不明なそのゲーム機には、言葉を話す動物たちと村で暮らすゲームが内蔵されていた。当時、皆遊んでいたが、次第に呪われていると噂され、私以外はやらなくなっていた。それでも私は、画面の中の友だちが全てだった。

タイトル音楽が流れた瞬間、記憶が一気に蘇る。表示されたアバターは黒髪に地味な服で、今の私そっくりだった。部屋も現実の私の部屋と同じように殺風景だ。村はあの頃のままだった。当時ゲームだからといってわざと村を荒らしたり、動物に意地悪をしていた子もいた。でも私は誰よりも村も動物も大切にしていた。その証拠

に村の中心にスズランが咲いていた。毎日起動しないと枯れるはずなのに今も咲いている。動物たちは「顔、疲れてるね」「仕事は大丈夫か」と異様に気遣ってきた。親友だった猫のクロの姿だけが見当たらない。

村の端でクロの後ろ姿を見つけて、話しかけようとした瞬間、画面が固まった。電源に手を伸ばしたその時、クロが振り向いた。その視線は画面の外の私を見ていた。次の瞬間、画面は暗転し、ノイズ混じりの文字化けしたスタックフロールが流れ出す。その後ろで大人になった私の現実の生活が映し出されていた。苦しそうな自分の姿に息が詰まる。だが映像は切り替わり、花に水をやり、動物たちと笑う、かつての私のアバターが映った。

音が消え、暗くなった画面の奥からクロが現れる。「スズランを咲かせたキミは、きっと大丈夫だよ」と言うって微笑み、「ちんぷいぷい」と呟いた。それは昔、私が教えた辛い時のおまじないだった。そのまま電源は切れ、もう二度と起動することはなかった。



に村の中心にスズランが咲いていた。毎日起動しないと枯れるはずなのに今も咲いている。動物たちは「顔、疲れてるね」「仕事は大丈夫か」と異様に気遣ってきた。親友だった猫のクロの姿だけが見当たらない。

村の端でクロの後ろ姿を見つけて、話しかけようとした瞬間、画面が固まった。電源に手を伸ばしたその時、クロが振り向いた。その視線は画面の外の私を見ていた。次の瞬間、画面は暗転し、ノイズ混じりの文字化けしたスタックフロールが流れ出す。その後ろで大人になった私の現実の生活が映し出されていた。苦しそうな自分の姿に息が詰まる。だが映像は切り替わり、花に水をやり、動物たちと笑う、かつての私のアバターが映った。

音が消え、暗くなった画面の奥からクロが現れる。「スズランを咲かせたキミは、きっと大丈夫だよ」と言うって微笑み、「ちんぷいぷい」と呟いた。それは昔、私が教えた辛い時のおまじないだった。そのまま電源は切れ、もう二度と起動することはなかった。

音が消え、暗くなった画面の奥からクロが現れる。「スズランを咲かせたキミは、きっと大丈夫だよ」と言うって微笑み、「ちんぷいぷい」と呟いた。それは昔、私が教えた辛い時のおまじないだった。そのまま電源は切れ、もう二度と起動することはなかった。

音が消え、暗くなった画面の奥からクロが現れる。「スズランを咲かせたキミは、きっと大丈夫だよ」と言うって微笑み、「ちんぷいぷい」と呟いた。それは昔、私が教えた辛い時のおまじないだった。そのまま電源は切れ、もう二度と起動することはなかった。

遺作

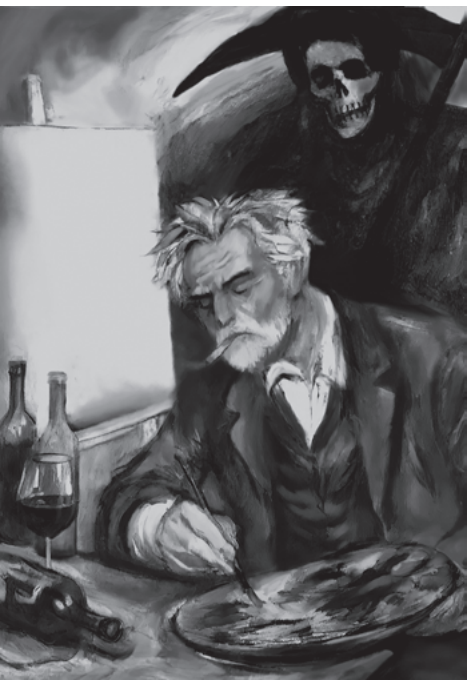
文・絵 駅近築3年

エルンスト・ヴァイスをご存知ない? それは貴方の不勉強というものだ。彼は表現主義の第一人者として世界の最前線を走り続けてきた男だ。中でも、この《最後の自画像》は別格だ。

私は彼の最期の夜、アトリエにいた。ワインを五本は空けていた。彼は鏡の前に座りながら、こう言ったんだ。「結局、私が本当に愛していたのは——」そこで言葉を切って、筆を置いた。そのとき描いていたのが、この絵だ。

私はすぐに動いたね。広報資料、限定図録、個展の準備。何より惹かれたのはこの歪み。鏡に映る自分を見つめる画家特有の、わずかにシメントリーが崩れた構図。実に自画像らしい、内省的でナルシスティックな視線だ。

あの絵のモデルは私です。ええ、間違いない。肩の角度も、左手の位置も、三年前私が描いた自画像と完全に一致している。偶然と言えるなら、奇跡です。筆致は師のものですが、形の癖は私の習作そのものです。晩年、師はもはや創造力も技術も衰え、過去の栄光に縋るだけだった。だから私の絵を利用したんでしょうね。



それなのに、画商は「鏡を見て描いた自画像だ」と?……笑わせてくれます。人体の確認に鏡を使うのは画家にとって常識。鏡に自画像なんて、素人の戯言ですよ。頬骨の影の入り方、視線の方向、あれは私の特徴です。私には、あの顔が私以外に見える理由が分かれません。私の若さを見て、かつての自分に郷愁でも抱いていたんじゃないですか?

あれは、私よ。彼が私を描いたのは、たった一度きり。三十年前、私たちが別れる前の夜。「これは誰にも見せない」と言って、描きかけのまま布をかけたの。あれきり、記憶の底に沈んでいたわ。でも、今回の展覧会であの絵を見たとき、すべてを思い出した。あの指の組み方。私が緊張したときにだけする癖。左耳の小さな傷。彼しか知らない場所。

あの絵が最近描かれたものだった? ええ、そうでしょうね。彼はあの夜の私を、この三十年間ずっと、心の中で描き続けていたのだから。他の人には分からないでしょうけれど、あの目の奥にある孤独、頬の微かな震え。あれは、彼と別れたあの夜の表情だわ。



俳壇

題「駅」

ジョバンニが鉄郎と遭う宇宙の駅

藤原達也

知らぬ間に読めない駅名朧月

遠藤耕太郎

間を置いた筈のように伸びる駅

片山耕二郎

駅前の虚空に消える「じゃあ、またね」

藜

亡き人の面影ひらり 駅の角

今井秀和

駅弁を開けて始まる冬の山

えのき

最寄り駅君と二人で乗り過ごし

ニンニクましましレディ

発車音駅に響くな海猫渡る

酒豪うさぎ

待ち合わせ駅改札の西東

石津美基子

ランドセル連なる駅に私も並ぶ

生駒桃子

雑詠

隠れん坊小鬼を待ちて幾星霜

今井秀和

ポケットの底に図書館の感熱紙

片山耕二郎

サビだけが思い出せない雨宿り

片山耕二郎

夏休み自由の刑に処せられて

藤原達也

みかづきの斜面を滑って生きてたい

マリーン

紀見峠春隧道も一直線

上野慎也

気が付けば日足が短くなりそめぬ

上野慎也

カルピスの水玉だけが世に残り

上野慎也

水無月のひと雨ごとに伸びる茎

青じそ



あやすみ

歌壇

題「遊」

アルプスでアルムおんじと遊んでた会議資料がゆらゆら揺れる

花屋

遊園地両親を探す寂しさと手を引く兄の手の温かさ

大田万宝子

正月に宝探して遊ばせし甥姪たちも大人になりぬ

藜

飲み会のテーブルの下繋ぐ手は泡にまぎれた秘密の遊び

ロマンスマジシャン

ゲームでさ遊び呆けて早数年画面の向こうもひとつの故郷

マリーン

遊園地外の柵越し観覧車見れど見れどどんてん

はるきすと

物見遊山どこへ行っても胸躍るところへ行っても空は通ずる

青紫悠

浮遊する UFO の中大惨事一人残らず食べちゃったらしい

惑星 E 人

浮遊するわたしの気持ちつかまえてそれをあなたの影に重ねる

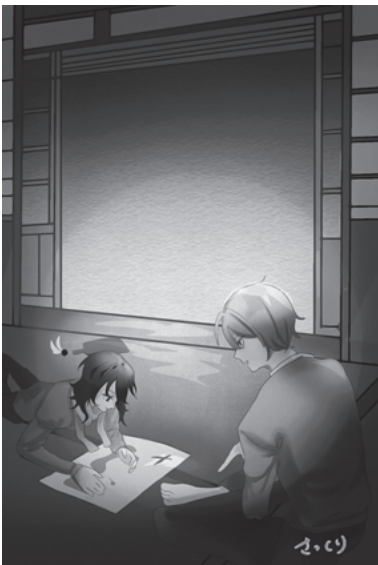
アールグレイフィグ

夕暮れに頬染め帰るこどもたち遊び疲れてなお笑み絶えず

小銭

吐魯番に遊び駅舎の床石に頬冷まし臥す青春の夏

上野慎也



せいり

自由詠

愚痴ったり媚びへつらって酒飲んで大人になってなんか生きてる

花屋

「きみと観た映画は全部ハズレだ」と言う元カレがいちばんハズレ

花屋

冬の日に君が選んだペアリング 生まれ変わって、てりたまひとつ

花屋

後部座席でしか聞かない曲たちが私のことをいちばん知ってる

アールグレイフィグ

美しい形の頬にのせられてチークはいっそう明るさを増す

アールグレイフィグ

「青が好き」そう言い見つめるネモフィラの花 僕への好きも少し残して

留年ハムスター

よく見ればひとつひとつはちがうけど僕らは同じ地球に生まれた

久保田真有

道しるべ残して歩くあの子らがちゃんとお家につきますように

久保田真有

母と子のつながれた手と伸びる影「今日のご飯なに？」秋の夕暮れ

うじん

ベル響く駅のホームで涙のむまつ身となりて「また逢う日まで」

あんず

ウンザリだ憎らしいほどにさんさんと日頃の怠惰を罰す空かな

マリーン



選評

俳句の題「駅」一句目、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」のジョバンニと、アニメ『銀河鉄道999』の鉄郎が、宇宙にある駅で出会ったとしたら、どんな会話を交わしたりするだろう？ 時代とジャンルを越えた二作品をめぐってののびのびとした空想が膨らむ楽しい句。二句目、ほろ酔いで電車を乗り過ぎた場面か、旅先での場面か、朧月のぼんやりとした明かりが異世界への入り口になるよう。雑詠一句目、隠れん坊の遊びで、気づかれにくい場所にうまく隠れすぎたせいか、鬼に見つけられないまま「幾星霜」が過ぎたとする想像力。幼少期へのノスタルジーと、遠い歴史的過去の懐古とが重なる。二句目、「図書館の感熱紙」は、検索の機械から出てきた、書棚などの情報が入っている紙片か。思わぬときに、過去の自分に出会うような瞬間。

短歌の題「遊」一句目、会議中に資料や議論に集中できない、心ここに在らずの心境。高畑勲や宮崎駿が描いたアルプスの美しい山で、裸足で自由に遊ぶハイジに憧れる気持ちに共感を誘われる。二句目、幼少期の思い出だろうか、保護者がいなくなってしまう心配、細さのなかで、手をつなぐ兄に、普段の数倍も頼りがいを感じたのではないだろうか。

自由詠一句目、社会のなかでなんとかやっていくために愚痴や媚で自分や他人を騙しつつやっていくことが「大人にな」ということ、と理解しつつ、子どもの純粋さを失いたくないという思いを感じさせる。四句目「後部座席」は、親の車のだろうか、その「曲たち」は親の好きな曲かもしれない。家族のなかで自分だけの自分らしさを見つけていく。



癒し効果？ ろくろ体験記@笠間市

千葉百々花

ろくろ体験をしに、笠間焼で有名な茨城県笠間市へ日帰りで行きました。都内でもろくろ体験はできますが、「陶炎祭(ひまつり)」という大きな陶器市が開催していたこともあり、せっかくならと本場のこちらへ。体験の事前学習も兼ねて、広い会場の端から端まで歩くことにしました。笠間焼は特

絶景！しまなみサイクリング @生口島

是枝菜々美

今年2月、長年の夢だったしまなみサイクリングをしに、広島県生口島(いくちじま)へ行ってきました。天気も味方についてくれたのか、その日は2月とは思えないほど暖かく快晴でまさにサイクリング日和であった。

今回はあまり時間もなかったの

で、尾道駅からフェリーで瀬戸田

徴がないことが特徴とのこと、作家さんや窯元のテントごとに個性の光る作品ばかり。一目惚れした湯のみとマグカップを4点ほど勢いで購入してしまいました。全部コップ：

素敵なお手本をたくさん見て、予習バッチリでいざ体験へ。ペダルを踏んでろくろを回します。作る形に関わらず、最初に円柱状に整えられた粘土を両手の親指で上から押し開き、よく見たことのあるろくろの手つき(初心者なので真似)で成形するのが主な流れ。

(文化領域助手



港まで渡り、瀬戸田港へ多々羅大橋(たたらおおはし)までをさつと回る短めのコースにすることに

した。私は、サイクリング初心者であり、ロードバイクレベルの自転車には到底乗れないので、電動自転車×ショートコースのゆとりサイクリングである。目指すは

多々羅大橋。海沿いの道を漕ぎ進めていく。風を切る感覚がとても気持ちいい。そして、さらさらと

光る海が道沿いにずっと続いており、贅沢すぎるサイクリングロードである。



釉薬をかけてもらえます。陶器市で黒いお皿の購入を迷いに迷ってやめていたので、1つを黒にしたいので無事にゲット。欲しいものって、作っちゃえばいいんだ！自宅への到着までは3か月ほどかかるので、届くまでもまた楽しみます。思い出しにも形にも残る旅になりました。

(メディア領域助手

モーニングはご飯一杯まで(自戒) 柏倉萌花

昨年10月、夜行バスで神戸三宮へ。朝食は友人に勧められたヒシミツ醤油で「里モーニング」をいただいた。平日早朝のためかおひとり様が多い穏やかな空間で、思わず長居してしまい大慌てで身支度を整えることに…。

友人と合流し、大本命、ホテルケーニヒスクローネ神戸内のカフェ「くまボチ邸」へと向かう。無事にゲットできた先着50名限定のクローネ引換券を握りしめ、わくわくしながら入店した。

ランチはパン・サラダ・ドリンクがおかわり自由、かつメイン料理、デザート、ソフトクリームがセットで2310円！(しかも時間無制限！) 約20種類のパンから、オレンジカット・りんごのデニッシュ・チーズクロワッサンなど甘い系としょっぱい系を欲張りにチョイス。通常食べ放題のパンは小さいイメージがあるが、写真の通りバスケットからはみ出すほどの大きさである。ここにきて



(言語・文学領域助手

心象点描 アッシジにて 池上公平

今年、2026年の3月初めにイタリア、アッシジを訪れた。目的の一つはアッシジが生んだキリスト教最大の聖人の一人、聖フランチェスコの遺骨の展示を見ることである。聖フランチェスコは1226年に世を去り、その遺体はいったん埋葬された後、アッシジの、彼が設立した修道院の地下墓所に1230年に改葬された。今年に没後800年であるが、800年間一度も遺骨は公開されず、今回が史上初の機会となる。アッシジの小さな町には驚くべき数の信者が世界中から集まったが、拝観にはウェブでの事前予約が必須であったので、大きな混乱はなかったようである。

聖フランチェスコはアッシジの

裕福な商人の家庭に生まれ、騎士になることを夢見たが果たせず、回心を経て修道士となった。彼は「貧」と「愛」と「平和」を説き、変質しつつある社会に適応しかねていた教会を、期せずして改革することになった。彼が設立したフランチェスコ会(正式には小さな兄弟会Ordo Fratrum Minorum)

今年、2026年の3月初めにイタリア、アッシジを訪れた。目的の一つはアッシジが生んだキリスト教最大の聖人の一人、聖フランチェスコの遺骨の展示を見ることである。聖フランチェスコは1226年に世を去り、その遺体はいったん埋葬された後、アッシジの、彼が設立した修道院の地下墓所に1230年に改葬された。今年に没後800年であるが、800年間一度も遺骨は公開されず、今回が史上初の機会となる。アッシジの小さな町には驚くべき数の信者が世界中から集まったが、拝観にはウェブでの事前予約が必須であったので、大きな混乱はなかったようである。

聖フランチェスコはアッシジの



池上公平「アッシジ、サン・フランチェスコ修道院」板・油彩

聖フランチェスコの生きた時代は十字軍の時代であった。彼はエジプトのダミエッタを攻撃する十字軍の後を追って1219年に現地に赴き、大胆にもスルタンに会見、平和を説き、キリスト教への改宗を勧めた。キリスト教徒とイスラム教徒が敵対していた当時、そんなことをすれば即座に首を刎ねられても仕方なかったが、無事に戻ってきたのはスルタンが偉かったのであらう。このエピソードのゆえに、今日聖フランチェスコは諸宗教間対話の保護者とされている。ガザやヨルダン川西岸地区におけるイスラエルの蛮行、アメリカとイスラエルによる理不尽なイラン攻撃、さらにはウクライナ戦争の報道に接する度に、平和を説いたフランチェスコの姿を思う。

拝観した遺骨は驚くほど小さかった。身長はおそらく140cmほどで、子供と見まごうばかり、同時代の伝記によれば当時としても小柄な人物だったようである。その小ささゆえの大きさ、貧しさゆえの豊かさを心に留めて外に出た。

(芸術領域・教授

(芸術領域・教授

新しい出会い！

大西千晴

昨夏、家族でボストンの妹の家に遊びにいつてきました。アメリカの都市というと、ニューヨークやロサンゼルスのような賑やかな街を思い浮かべますが、ボストンは独立運動の舞台となったボストン湾とれんが造りの街並みで落ち着いた雰囲気。ハーバード大学やMITを擁する学術都市で、治安も比較的良好いのでんびりと散策を楽しむことができました。

主要な観光名所も巡りつつ、今回の旅の一番の目的は、子供たちが「アメリカ家庭の日常」を体験すること。いとこたちとスーパで買い物したり、近所の友人と庭でバーベキューを楽しんだり

と、ボストン郊外でのおおらかな暮らしを満喫しました。賑やかなところにも行きたいということ

で、数日間はニューヨークへ。こちらはエネルギーに溢れた街でも刺激的でした。

美術史出身の私にとって、ボストン美術館やメトロポリタン美術館を訪れたことは至福のひとつでした。いつもと違う場所に行くことで、これまで触れてこなかった作家や作品の魅力に気づくことも旅の醍醐味のひとつ。今回の出会いは、ルイス・C・ティファニー。

あのティファニー創業家の一員で、アメリカン・アール・ヌーボーの第一人者とのこと。特にステンドグラスの色彩とガラスのニュアンスがなんと幻想的！ 現在も教会に設置されている作品がある



(芸術領域助手

編集後記

2・3面のイラストは、作品に合せて、漫画研究会の文芸学部メンバーに描いてもらっています(今回の駅近築3年さんは自筆)。いつもご協力ありがとうございます。

今回は池上先生も自筆の油彩画を寄せてくださいました。助手さんたちの旅行記「ブックタウンから遠く離れて」は今回で4回目になります。いつもご協力ありがとうございます。

俳句・短歌の投稿は、常連さんが定着してきたように思われますが、まだ投稿されたことのない方・作ったことのない方も、ぜひ次号以降、投稿していただければ幸いです。

(福岡

次号の俳句・短歌の募集

俳句

題「寒」(という文字を入れる)あるいは

題「飛」(という文字を入れる)あるいは

題「時」(という文字を入れる)あるいは

題「歩」(という文字を入れる)

二〇二六年十月末しめきり

応募はこちらから

